

七、第二十六海軍建設部「サルミ」残留員ノ情況
 八、「サルミ」地區引揚情況

一、艦隊ノ編成並ニ「エーギニア」進出

昭和十八年十月十五日 當時第八艦隊所屬トシテ東部

「エーギニア」方面ニ在リシ第七根拠地隊及第二特別根拠地

隊ヲ主体トシテ編成セラル

長官一行ハ「ラボル」ヨリ「シホ」マジンヲ經テ十一月末「ウエワク」

ニ着任ス

二、艦隊司令部「ウエワク」ヨリ「ホーランダヤ」移駐迄

當時東部「エーギニア」ニ在リシ第十八軍及第四航空軍ト協

同作戰シ第七根拠地隊 第二十師團 第四十一師團ノダン

ピール海峡方面ヨリ「ウエワク」方面ヘノ轉進作戰及「ウエワク」

(終)

「ホーランヂヤ」方面へノ補給作戦ニ任ズ

前記諸部隊ハ三月下旬迄ニ其ノ八割ハ「マジン」方面ニ到着セルモ「セビツク」河口ノ隘路ニ沮マレテ「ウエワク」集結ハ至難

ノ情況ナリキ

三、「ホーランヂヤ」移駐

三月初頭第九艦隊ノ担任地域ハ五月一日附ヲ以テ「ニエーギニア」北岸一帯ニ「ハルマヘラ」迄加ヘラル、首ノ内示ニ接シ司令部ハ準備完了次第「マノクワリ」ニ移駐ノ計畫ヲ立テ四月十日先ツ

「ホーランヂヤ」ニ移駐ス

四、「ホーランヂヤ」戦闘

(イ) 戦闘前ノ情況

(一) 敵情

「ニエーギニア」ニ於ケル敵ハ逐次其ノ勢力ヲ增强シ昭和十九年一月

以来「グンビ」次「アドミラルティ」諸島ヲ掠取シ「フィンシユ」「マザブ」
 「マラワサ」等ヲ主基地トシテ連日「マジン」「ウエワク」方面ヲ四月
 ニ入りテハ「ホーランヂヤ」ニ至ル迄猛空襲ヲ加ヘツ、アリ又敵海
 上部隊ハ二月「トラック」ヲ四月初頭「バラオ」ヲ空襲シ艦船及
 基地設ニ甚大ナル損害ヲ與ヘタリ

(二) 友軍ノ情況

1. 海軍

敵「トラック」「バラオ」方面空襲ニ依リ基地施設ニ甚大ナル
 損害ヲ受クルヤ「ニューギニア」方面ニ對スル兵力、増強軍需資
 材ノ補給ハ極メテ困難トナリ該方面ノ防備施設ハ未完成
 ノ儘放置セラル、ノ止ムヲ得ザル情況トナレリ

2. 陸軍

A. 第十八軍

第四十一師團ハ主カラウエワクニ一部ヲマダン方面ニ
 配シ第二十師團第五十一師團ノ收容ニ任シツアリ
 第二十師團第五十一師團ハダンピール海峡方面ヨリウエワク
 ニ向ケ轉進中ニシテ其ノ大部ハマダン以西ニ到着セルモ
 セビツク河口ノ隘路ニ沮マレテ概ネ其ノ以東ニアリ軍司
 令部ハマダンニアリ

B. 飛行第六師團

主カハ四月初頭「ホーランヂヤ」ニ移駐シウエワク方面ニ若
 干ノ地上部隊アリ

C. 「ホーランヂヤ」ニ於ケル配備

飛行第六師團約一万 第十八軍兵站関係部隊約五千
 共ニセントニ 飛行場地区ニアリ
 兵站部隊ノ一部 「ホーランヂヤ」 港地区及「ハマデー」地区ニアリ

(三) 戦開直前ニ於ケル第九艦隊ノ配備

ノ一般配備

三月一日附第九艦隊ハ南東方面艦隊ヨリ除キ南西方
面艦隊ニ編入セラル

三月二十五日附第七根拠地隊 第二特別根拠地隊ヲ解散
セラレ其ノ兵力ヲ併セテ第二十七特別根拠地隊ヲ編成セラル
艦隊司令部ハ四月十日 ウエワクヨリ ホーランヂヤニ移駐シ
第二十七特別根拠地隊主力ハカイリル島ニ一部ハマダン
方面ニアリ

第九十警備隊ハ「ホーランヂヤ」ニアリテ長官直率ス
附屬駆潜艇ニ隻ハ「バラオ」方面ニアリ

第八海軍建設部ハ解散ノ上「マクワリ」第二十六建設部ニ併
合ノ予定ヲ以テ約半部ハ「テムタ」方面ニ集結爾餘ハ

ウエワクヨリホーランヂヤニ向ケ陸路行軍中ナリ
 尚先遣隊トシテマノクワリニ向ケ進出セルモノ若干アリ
 2. ホーランヂヤ附近ノ配備

港地区ニ艦隊司令部及第九十警備隊主力(約二五〇名)アリ
 主要兵器 二十五耗單裝機銃六門 センタニ デムタ デバ
 プレ コトラヂヤ ヴアエモ アイタベ シヤカムル ニ約一ヶ小队乃至
 一ヶ分隊ヲ分派ス
 ホーテカンニ艦隊附属水上機隊アリシモ飛行機ハ消耗シ盡
 セリ

(四) 戦闘ノ情況

四月二十日夜敵機動部隊「アドミラルチー」附近ヲ西進中トノ
 情報ニ接ス

四月二十一日〇八〇頃ヨリ一七〇頃迄概ネ二乃至三時間毎ニ艦

載機ハ、一〇〇。頃陸上機ノ空襲アリ一ニ。頃空母視界内ニ入
ル 一八。頃ヨリ終夜巡洋艦ヲシキモノ、緩除ナル砲撃アリ

四月二十二日

〇六三。頃砲撃一時中止同時ニ艦上機空襲開始終日續行
。七三。送信所破壊

〇八三。頃敵潜水艦及輸送船各ニ一三隻 駆逐艦十餘隻
「フンボルト」港侵入 駆逐艦ノ掩護射撃裡ニ一〇。頃主力ヲ

「ハマデー」海岸ニ 一六。頃一部ヲ「ホーランヂヤ」港ニ揚陸開始ス

陸軍部隊ハ「コタラヂヤ」方面ニ於テ若干抗戦セルモ逐次飛行場
方面ニ圧迫セラレシモノ、如シ

艦隊司令部ハ「ホーランヂヤ」市街ニ續ク溪谷内宿舍ニ九十警
ハ市街南東方鐘乳洞ニアリ 「ハマデー」ニ揚陸セシ敵ノ一部ハ
一七。頃陸路港地区南方ニ進出シ司令部九十警間、連

絡吐絶ス

敵ハ當日「テパブレ」ニモ上陸セルモ當時連絡吐絶シ情況不明ナリ

一。非戦闘員（八建関係）ニ対シ「サルミ」ニ向ケ轉進命令ヲ發令ス

一七。艦隊司令部「センチニ」ニ向ケ港地区發

（和田、高橋、尺長三參謀連絡ノ爲殘留）

二三。九十警司令來着 左ノ艦隊命令ヲ傳達ス

「第九十警備隊ハ市街奥地 漢谷ニアリテケリラ」戦ヲ續行セヨ 情況眞ニ止ム得ザルニ至ラバ司令部ニ追及セヨ 司令部ハ「センチニ」又ハ「テムタ」ニアリ

四月二十三日

〇二。短移動送信機破壊 通信吐絶

〇三。九十警二十五耗機銃六ヲ以テ港岸ノ敵ヲ猛射ス

天明以後市街地区ハ敵ニ占領サル
 夕刻九十警「センチ」ニ向ケ轉進
 五「ホーランドヤ」戰關係員爾後ノ情況

(1) 艦隊司令部關係

(一) 司令部

四月二十二日夕刻「センチ」ニ向ケ港地区發

直接護衛兵力

指揮官 森本兵曹長
 兵力 司令部附下士官兵員七根部隊

第二通信隊ノ約半部

合計 約一〇〇名

爾後ノ消息殆ンド不明ナルモ「センチ」飛行場附近ニ於テ小
 員數ノ隊ニ分離シ既ニ轉進セル陸軍部隊ヲ追求セルモ、如シ

昭和十九年四月「ウ」アニモ發二十年二月「サル」ニ到着セル高砂義勇隊員ノ談ニ依レバ途中ニ於テ長官外数名ノ一行トニ會セリト 其ノ時長官ハ既ニ死セシアリテ之ガ埋葬ヲ行ヘリト 同人ハ出發地ノ關係上 センタニ湖南側ヲ通過セル筈ナレバ長官一行ト出會ヒタル場所ハ「ゲ」ニム以西ト認ムルモ 日時場所共ニ不明ナリ

(二) 和田、高橋、尺長 三參謀

第二通信隊員 司令部附下士官兵、旧七根部隊等約一〇〇名ヲ率ヒテ二十五日 早朝港地区發 司令部ヲ追求セルモ 第二日以後ハ通跡不明ナリ
五月二日頃 センタニ飛行場地区ニ到達セルモ同地ハ既ニ完全ニ占領セラレ友軍ナヤラ五月六日「テ」パフレ南方ニ至ル同地区モ亦敵手ニアルヲ以テ十五日「テム」夕裏山ニ達ス 「テム」夕ニモ友軍

ナク敵斥候出沒シアリシヲ以テサルニ轉進ヲ決意シ六月二日ヤ
ムナ^レ(サルミ東方約五十軒)ニ到着ス

此ノ間長官一行ノ情況ハ全ク不明ナリシモ時ニ前後セル陸軍
轉進者ヨリ長官ラシキモノゲニム附近或ハ海岸道ヲ見受ケ
タリトノ噂ヲ聞キ又先行ノ氣配モナキヲ以テ六月五日和田尺
長ハ至急第三十六師團ニ連絡スベク先行 高橋ハ爾餘ノ部
隊ヲ率ヒテ長官一行ヲ收容スベクヤムナニ待機セリ和田尺
長ハ爾後確實ナル消息ナキモ隨行セル 増田機兵長トトル
河附近ニテ出會ヒタル者ノ聞ヲ所ニ依ルハ 和田參謀一行ハ
トル河右岸ニ於テ糧食盡キ尺長 和田ノ順ニ一日違ヒニテ
死セリト 因ニ増田モ爾後ノ消息不明ナリ
高橋ハ十日間ヤムナニ待機シ通過部隊ヨリ長官一行ノ情
報蒐集ニ努メシモ何等ノ手懸リナク前後ノ情況ヨリ推定シテ

長官到着ノ見込ミナキモト判断シ六月十二日約六十名ノ部隊ヲ率ヒテサルミニ向ケ出發七月十九日第三十六師團司令ノ部ニ連絡ス途中五ヶ小隊ニ分チテ行軍セルモトル河附近ノ情況險悪ニシテサルミニ到着セルモノハ三ヶ小隊ノ一部ノミナリ(ニヶ小隊ハ全然行方不明)

(三) 田島大尉(艦隊司令部附 旧七根)

田島大尉ハ分遣隊長トシテセンチニニアリタルモ空襲開始ト同時ニ連絡吐絶センチ為同地陸軍部隊ニ合同シサルミニ向ケ轉進五月初頭同地着次テ陸軍大發ニテマノクワリ着爾後不明ナリ

(四) 第九十警備隊

四月二十三日夕刻(一六〇頃)港地区發司令部ヲ追求ス二十八日夜間センチニ飛行場地区突破際敵哨戒兵ノ發見スル

處トナリ翌二十九日早朝敵、攻撃ヲ受ケ小部隊ニ分散シ
其ノ大部ハ爾後ノ消息不明ナリ

諸情報ヲ綜合スルニ司令鬼束大佐ハ五月下旬テムタ西方
地区ニ到達セリト推定セラルモ爾後不明

先任將校河野大尉ノ消息ハ全ク不明ナリ

内務長坂本大尉 主計長五十嵐主計大尉ノ一行ハ五月

下旬陸軍北園部隊本部ト共ニヤムナニ到達糧食

獲得ノ爲同地ニ滞在中 内務長ハ六月廿七日主計長ハ

六月十二日戦死 掌工作長永澤工曹長外二名ノミ七月

下旬サルミニ到着ス

水警科長飯島中尉ハ四月三十日セントラニ飛行場裏山

地区ニテ軍醫長一行ト出會ヒタルモ同處ニテ再ビ敵ノ攻

撃ヲ受ケ分離シ爾後消息不明ナリ

隊附伊藤軍醫大尉ハ五月三日夜「セント」湖北岸「ソシリ」ニ於テ敵襲ヲ受ケタル際軍醫長ト分離爾後不明噂ニ依レバ五月中旬「テムタ」西方地区ニアリタリト
 軍醫長福島軍醫大尉外数名ハ「セント」ニ「ソシリ」ケニム
 「アルモバ」「ヤムナ」「ゴエスチン」(トル河上流約三十軒)ヲ経テ六月四日早朝「サルミ」地区ニ到達ス

(ハ)第八海軍建設部

「テムタ」ニアリシ約一〇〇〇名ハ其ノ儘「サルミ」ニ向ケ轉進シ約八〇〇名ハ五月初頭「サルミ」ニ到着ス
 爾後第三十六師團ノ指揮ヲ受ケ現地開發ヲ開始セルモ五月十七日「サルミ」附近亦敵ノ上陸スル所トナルヤ師團ヨリ「マノクワリ」轉進ヲ命ゼラレ飛行第六師團ノ一部ト共ニ陸行ス。途中土民ノ襲撃ヲ受ケル事数次殊ニ「クルド」島ニ於

テハ約三〇名虐殺セラル依リテマクワリ行キテ断念シ反轉シテサルミ西方地区ニ集結シ現地自治ヲナスホーランヂヤル以東ヨリ轉進セルモノハ殆ンド到着シアラス

(二)各地派遣(出張員)ノ情况

艦隊機関長、第二通信隊司令、同隊員及八建職員各数名ハ當時「マクワリ」出張中ニシテ爾後各部ニ轉属セリ

第二通信隊数名「ウエワク」残留ノ儘ナリ

薄井司政官 柿谷囑託内地出張中

安田囑託外ニ名「パラオ」駐在中

今井軍醫中佐「マクワリ」出張中

六「サルミ」現地自治情况

停戦前轉進部隊ニ對スル師團ノ方針トシテ陸海軍人ニ若干ノ米塩ヲ配給セルモ軍属ニ配給ナキ爲海軍部隊ノ大部ハ陸

軍部隊ノ使役ニ使ハレ其ノ際ノ手當米及古農園等ヲ漢リツ、自活ス

昭和十九年末師團ノ方針ハ現地自治ニ定リ依テ海軍部隊モ積極的ニ農園開發ニ從事シ敵機ノ妨害ヲ受ケツ、モ二十年四月頃ニハ一應農産物ニ據ル自治態勢ヲ確立セリ

爾後之が強化ニ努メ八月頃ニハ概ネ安住シ得ルノ態勢トナレリ停戦以後ハ更ニ容易ナル自治ヲ續ケシモ濠軍ノ要求ニ依リ二十一年四月七日「サルミ」地区ニ集結ヲ命ゼラレシ爲 移轉ニ依ル過勞ト集結地耕作面積不足ノ爲陸軍部隊ヨリ若干ノ補助ヲ受ケツ、辛ジテ自治ヲ繼續セリ

七、第二十六海軍建設部「サルミ」残留者ノ情況

(ハ)残留者氏名

海老名庄次郎

松本 富藏
床井 勝

(四) 身分

第二十六建設部嘱託

所屬會社

南洋興發株式會社

(一) 情況

右三名ハ何レモ十年乃至三十年間當方面ニアリテ農産部
門ニ發展シアリシモノニシテ農耕方面ノ造詣深ク且多數ノ土
人ヲ手馴ケアリシヲ以テ兼テ陸軍嘱託ヲ命ゼラレ陸軍部隊
現地自治ニ協力セリ

ハ「サルミ」地区引揚ゲ情況

(ウ) 六月三日「サルミ」發 十六日名古屋着 Vニ七號ニテ歸還セルモノ

合計一ニ七名

内譯

軍人

三十一名

第九艦隊関係

十九名

第十八警備隊

十二名

軍属

九十六名

第八海軍建設部

九十四名

第二十六建設部

二名

(四) 六月十日頃 氷川丸ニテ

サルミ發予定者

軍属(八建)

三名

(三) 戦犯関係ヲ「ホーランヂヤ」ニ連行サレシ者

軍人(十八警大尉尾島五郎)一名

軍属(八建)

四名

(二) 其ノ他

停戦後 勞務團トシテ「ホーランドヤ」派遣者

軍属(八建)

五名

同シタク「マノクワリ」派遣者

軍属(八建)

三名

何レモ該地引揚ト共ニ既ニ歸還セルモノト認め
台湾人約一〇名 朝鮮人八名ハ 五月二十八日 聯合軍指令
ニ依リ現地ニテ復員 ▽ニ七號ニテ 台湾人ハ基隆 朝鮮人
ハ名古屋ニ歸還セリ

(終)